

【平成31年度 第3学期始業式 校長講話】

明けましておめでとうございます。

皆さんは、今年の目標は立てましたか？

今年は、夏期休業中に待望の新校舎への引っ越しがあります。

そして再来年は、本校創立50周年の節目を迎えます。

私は、先生方、生徒諸君と共に、地域に根ざした信頼される中堅校として、足下から地道に頑張っていきたいと思っております。

私の目標は、

本校の節目となるこの2年間に、生徒諸君が将来の夢、目標に向かって学習と学校行事・部活動に思う存分勤しむことができる教育内容と教育環境を一つひとつ整えていくことです。

さて、よくこのようなときに「飛躍」という言葉を使いますが、私はあえて使いません。それは、物事は一足飛びには進みませんし、実現できないからです。

「足下から地道に。」と述べたのは理由があります。

今年は皆さんに「足元から地道に」次のことを励行してほしいと思っております。

1. 高校生の本文である学業に勤しむこと。

そのために「知らなかったことを知る。分かる。」ことに積極的に、意欲的に取り組むこと。例えば、進路の目標を定めること、手始めに好きな教科から取り組んでみることなどで、前向きになれると思っております。

2. それぞれのHRが「みんなが安心して、笑顔でいられる居場所となるよう、一人一人が心配りをする。」こと。

3. 登下校をはじめ校外で、高校生らしい行動を心掛けること。

これは高校生らしい立ち居振る舞い、正しい服装を心掛けることを含みます。

その積み重ねが、友達から、また、地域の人々からの信頼に繋がります。

2学期終業式で述べた通り、本校の制服は、君たちに相応しい素敵な制服です。

誇りをもって正しく着用しましょう。

4. 部活動では本校の代表として、誇りと名誉を胸に他校と思い切り競い合うこと。

そして試合や発表が済んだら、結果の如何を問わず、学校の垣根を越えて健闘を称え合うこと。

以上を励行する過程では自分の欲求を一時抑えたり、時には一歩踏み出す勇氣が必要だったりします。でも、4つの地道な努力を通して、息苦しそうにしていた後輩が、教室でつまらなそうにしていた友達に、笑顔や元気が戻ってきたり、地域の人と自然に挨拶や会話をすることができるようになって人間関係が広がったり、「授業がなんか楽しくなってきたな。」と思える、「プチ幸せ」が、必ず増えてきます。

そうなれば、「4つの地道な努力」は、もはや苦ではなく、自然な行いに昇華していきます。これが「大人になる」ということです。

以上の積み重ねが、我が母校をより素晴らしい学校へと発展させていくのです。これは、イコール、皆さんの充実した高校生活と重なる筈です。

1・2年生へのメッセージは、2学期の終業式でお話ししました。皆さんの心にすでに届いていると信じて、重複を避けます。

まずは、三学期の大きな行事、昨年は悪天候で中止になった、実質第1回マラソン大会が予定されています。皆さんは体育の授業で日々練習に取り組んでいましたね。各々の目標に向かって頑張りましょう！私も走ります！

3年生は、約100名の生徒がセンター試験を受験します。現役生は、最後の最後まで実力は伸びます。体調面に十分注意しながら、焦らず、平常心で、最大限の努力をしてください。

さて、今年は皆さんもご存じの通り、東京を中心にオリンピック・パラリンピックが開催されます。皆さんをはじめとした若者は、大いに心躍らせ、多くのドラマを目に焼き付けてほしいと思います。

しかし、私たち大人が熱狂しすぎるのは、時に、如何なものかと思えます。

今「レガシーを残そう。」という言葉が盛んに飛び交っていますが、「レガシー」って何でしょうね。辞書を引くと「遺産、前代の人が残した業績」と書いてあります。

私は日本語で表現できる（すべき）言葉は、「日本語」で表すべきだと思います。

3学期の終業式に、私の父の同僚であり、友人でもありました、1964年・東京オリンピックで日本人で唯一、国立競技場に日の丸を掲げたマラソンの 円谷 幸吉 選手のお話をしたいと思います。

円谷選手の生き方を通して、先人が残した皆さんへの「人生の道標」を、父から聞いた話を元に、地に足をつけたお話で皆さんと考えてみたいと思います。

それでは、今年もお互いに頑張りましょう。

私からは、以上です。

令和2年 1月 8日（水）

東京都立府中東高等学校長

こが のぶゆき
古閑 伸幸